

世界遺産学習を小学校社会科で取り組むための一考察

About the Study a World Heritage in Elementary School Social Studies

信田 和則
SHINODA Kazunori

キーワード：世界遺産学習，小学校社会科，総合的な学習，奈良市，体験学習，
Key Words：World Heritage Education, Elementary School Social Studies, The Period for Integrated Studies, Nara City, Hands-on Learning

1. はじめに

世界遺産学習は、「世界遺産はもちろんのこと、地域に伝わる伝統文化や文化財などを通して、それらを尊重する態度や地域を誇りに思う心情を養うことを目的」とし、「環境教育、国際理解教育、平和教育、人権教育など多様な学習へと展開することで、現代的な諸課題に対応しようとする」^{1) 注1)} 持続可能な社会の担い手を育てる ESD²⁾ (Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育) でもある。

平成 10 (1998) 年に「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録されたことを契機に、奈良市では、平成 20 (2008) 年度から奈良市世界遺産学習推進委員会が設置され取り組みが推進されてきた。奈良市における世界遺産学習は、「人類共通の宝物を受け継いできた先人の思いや営みに学ぼう」「奈良に生まれ、奈良に住み、奈良で学んだことを誇らしげに語れる子どもを育成しよう」という目的で始まった。平成 20 (2008) 年 2 月には奈良教育大学において「第 1 回世界遺産学習実践研究会」が開催された。その後、平成 21 (2009) 年 1 月に「第 2 回世界遺産学習実践研究会」が、平成 21 (2009) 12 月に「世界遺産学習全国プレサミット in なら」が奈良教育大学で開催された³⁾。

平成 21 (2009) 年に 4 つの市町村教育委員会と 2 つの学校で立ち上げた世界遺産学習連絡協議会は、令和 2 (2020) 年には 24 の市町村教育委員会と 3 つの学校が加入し、会員数を伸ばしている。平成 22 (2010) 年 11 月に、世界遺産学習連絡協議会が主催する第 1 回「世界遺産学習全国サミット」が、奈良市で開催された。それ以降、奈良市、大牟田市、平泉町、太田市、宗像市で開催され、令和 2 (2020) 年 2 月に第 10 回大会が再び奈良市で開催され、約 1,000 名が参加した³⁾。

このように、全国各地の市町村教育委員会で取り組まれている世界遺産学習は、学校では、「総合的な学習の時間」(以下、総合学習とする) で主に取り組まれている。小学校学習指導要領(平成 29 年 7 月告示)では、総合学習の目標として、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」⁴⁾ とうたっており、総合学習は、教科横断的に知識・技能を活用して、課題の解決を図る探究的な学習である。その探求課題は、在籍する児童の興味関心に基づき柔軟に設定するため、学年毎にクラス替えを行う場合が多い現在では、単年度で完結される傾向があり、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語の各教科のように、系統性を持った指導を行うことが難しい面がある。

そこで、筆者は、世界遺産学習を総合学習だけでなく、小学校社会科において実施することで系統性のある指導を行うことができるのではないかと考えた。本稿では、奈良市で取り組んでいる世界遺産及び文化遺産学習である「総合『なら』」^{注2)} と、筆者が平成 29 (2017) 年度から 3 年間、学校長として勤務した奈良市立鶴舞小学校における総合学習「『ふるさと鶴舞』から『世界遺産のあるまち奈良』・『われら地球市民へ』」の独自の実践(以下、「総合学習『鶴舞』」)をもとに、小学校社会科において世界遺産学習に取り組む方法について検討

することとした。

2. 奈良市「総合『なら』」における世界遺産学習と小学校社会科

2-1 「総合『なら』」における世界遺産学習

鶴舞小学校の実践例を見る前に、奈良市立の全ての小中学校が「総合『なら』」で取り組んでいる世界遺産と奈良の文化遺産についての学習を小学校社会科「学習指導要領」に照らし合わせてみて、世界遺産学習が小学校社会科教材として活用できるかどうかを検討した。

「総合『なら』」の学習目標は、「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、主体的に問題を解決する資質や能力と協同的に取り組む態度を育成するとともに、世界遺産や地域遺産、伝統文化、生活文化、自然環境、産業に対する理解を深めて愛情を育て、『なら』のよさを継承し、国際社会に生きる人として、また持続可能な社会の形成者として、自己の生き方を考えることができるようにする。」⁵⁾とされている。「総合『なら』」のカリキュラムには、各学校独自のカリキュラムに基づく学習内容に加え、世界遺産学習として、小学校の第3学年「奈良のお祭り おん祭」、第4学年「奈良公園の鹿」、第5学年「奈良の大仏の魅力」、第6学年「正倉院のたからもの」といった共通の学習内容が盛り込まれている⁵⁾。

2-2 小学校学習指導要領（平成29年7月告示）社会科の目標との関連

(1) 第3学年・第4学年

前項で述べたように、第3学年の「総合『なら』」では、「奈良のお祭り おん祭」を中心に学習が進められている。「祭りしまいは、おん祭り」といわれる「春日若宮おん祭」は、「春日大社の境内にある摂社・若宮神社の例祭」⁶⁾であり、平安末期から続く奈良を代表す

表1 第3学年における目標と内容^{注3) 7)}

目 標	
(1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。	
(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。	
内容(知識技能)	内容(思考力、判断力、表現力等)
(1) 身近な地域や市区町村の様子	
ア 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。 イ 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。	ア 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。
(2) 地域に見られる生産や販売の仕事	
ア 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。 イ 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。 ウ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。	ア 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。 イ 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。
(3) 地域に安全を守る働き	
ア 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。 イ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。	ア 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。
(4) 市の様子の移り変わり	
ア 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。 イ 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。	ア 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。

るお祭りである。祭りのクライマックスであるお渡り式の日には、祭りに参加・見学をする児童のために奈良市内の小学校が午前中のみの短縮授業としているほど、地域に根付いた祭りとなっている。第3学年では、この祭りの概要だけでなく、保存に努めてきた人の思いを小学校第3学年の社会科で使用されている副読本「わたしたちの奈良市」⁸⁾を使って、より深く学習している。このことで、表1、2で示した学習指導要領の第3学年・第4学年共通の学習目標である「地域社会に対する誇りと愛情」⁹⁾を学習することができると考えられる。さらにこの学習は、第4学年の学習内容としてあげられている「県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。」¹⁰⁾や「歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。」¹⁰⁾にもつながる。また、第3学年学習指導要領の内容の中には、「古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること」¹¹⁾とある。奈良市に存在する世界遺産に指定された社寺などが「古くから残る建造物」にあたり、それを中心に商店街やレストラン・旅館などが集まってい

表2 第4学年における目標と内容^{注3) 12)}

目 標	
(1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。	
内容(知識技能)	内容(思考力, 判断力, 表現力等)
(1) 都道府県の様子	
ア 自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。また、47都道府県の名称と位置を理解すること。 イ 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。	ア 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。
(2) 人々の健康や生活環境を支える事業	
ア 飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。 イ 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。 ウ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。	ア 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。 イ 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。
(3) 自然災害から人々を守る活動	
ア 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。 イ 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。	ア 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。
(4) 県内の伝統や文化、先人の働き	
ア 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。 イ 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。 ウ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。	ア 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。 イ 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。
(5) 県内の特色ある地域の様子	
ア 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。 イ 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。	ア 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

表3 奈良市内の世界遺産社寺における年中行事¹³⁾

1月	「若草山の山焼き」
2月	「春日大社の節分万燈籠」「興福寺の鬼追い式」
3月	「東大寺二月堂の修二会（お水取り）」「春日大社の春日祭」「薬師寺の花会式」
5月	「興福寺の薪能」「唐招提寺のうちわまき」
6月	「唐招提寺の開山忌舎利会」
8月	「春日大社の中元万燈籠」「元興寺の地藏会・万燈供養」
9月	「春日大社の采女祭」
10月	「唐招提寺の釈迦念仏会」
11月	「春日大社の雅楽演奏会」
12月	「春日大社若宮の春日若宮おん祭」

ることから、奈良市中心部の主な産業の一つとしては、観光業があげられる。世界遺産として登録された社寺と観光の関連を学ぶことは、第3学年学習指導要領の学習目標の中にある「地域の産業」「地域の様子」⁹⁾を学ぶことにつながると考えられる。

おん祭り以外にも世界遺産として登録された奈良市内の社寺では、数多くの年中行事が行われている。そのうちの代表的な年中行事について表3に示した。これらの年中行事は、地域の人々の願いや保存・継承のための努力によって次の世代である自分たちに大切に引き継がれてきていること、すなわち「地域社会に対する誇りと愛情」⁹⁾を学習する教材となりうる。また、第4学年の「総合『なら』」で取り上げられる「奈良公園の鹿」は、公園内の草を食べることなどで公園の美しい景観を保つ役割をしており、鹿が世界遺産の保護をより適切に行うためのバッファゾーン（緩衝地帯）としての奈良公園の保全になくてはならないことや、本来市街地にはいない大型の野生動物である鹿が奈良の人々と長年にわたり共存してきた歴史を学ぶことにより、地域のことをより深く理解することができる。このことは、第4学年の学習内容である「特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係」¹⁴⁾を学ぶことにつながる。

(2) 第5学年

第5学年の「総合『なら』」では「奈良の大仏の魅力」を中心に学習が進められている。平成12(2000)年度から奈良市教育委員会は、独自の副読本として「世界遺産のあるまち奈良」¹⁵⁾を、また平成20(2008)年度にはその改訂版として「奈良大好き世界遺産学習」¹⁶⁾を作成し、その後は毎年改定しながら学習に使用されている。これには、世界遺産「古都奈良の文化財」についての詳しい解説以外にも日本にある他の世界遺産や、世界の危機遺産・危機遺産を脱した世界遺産などについても触れられている。奈良市教育委員会は平成28(2016)年度から、副読本「奈良大好き世界遺産学習」をデジタル化した「デジタルブック奈良大好き世界遺産学習」^{注4) 17)}をティーチャーズガイドなどと共にウェブサイトで公開しており、副読本やデジタルブックなどを活用することで、奈良市内外の児童が奈良市にある世界遺産だけでなく、危機遺産や危機遺産を脱した世界遺産についても学ぶことができる。また、それらが自然災害や人的災害をどうやって乗り越えたか、あるいはどうやって乗り越えることができるかを学ぶことは、表4で示した第5学年の学習内容「自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること」¹⁸⁾について考える機会ともなる。

奈良市の「古都奈良の文化財」は世界遺産の中でも文化遺産^{注5)}として登録され、世界遺産登録基準¹⁹⁾の6つのうち4つが登録理由としてあげられた(表5)。ユネスコウェブサイトには、「古都奈良の文化財」には、「東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城京跡の8カ所が記載された。平城京跡は、初の考古学的遺跡として登録されている。710年のこの地への遷都により、壮大な都市計画のもとにかつてない規模で道路・市街地・宮殿・寺院などが造営され、794年の平安京遷都後も寺社の多くは旧都に残された。春日山原始林は文化的景観としての価値が高く評価された」²⁰⁾とある。このよう

表4 第5学年における目標と内容^{注3) 21)}

目 標	
<p>(1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。</p>	
内容(知識技能)	内容(思考力、判断力、表現力等)
(1) 我が国の国土の様子と国民生活	
<p>ア 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。</p> <p>イ 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。</p> <p>ウ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。</p>	<p>ア 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること。</p> <p>イ 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。</p>
(2) 我が国の農業や水産業における食料生産	
<p>ア 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>イ 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。</p> <p>ウ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。</p>	<p>ア 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>イ 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</p>
(3) 我が国の工業生産	
<p>ア 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>イ 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。</p> <p>ウ 貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>エ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。</p>	<p>ア 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>イ 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</p> <p>ウ 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。</p>
(4) 我が国の産業と情報との関わり	
<p>ア 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。</p> <p>イ 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を進展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。</p> <p>ウ 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。</p>	<p>ア 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>イ 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p>
(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり	
<p>ア 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。</p> <p>イ 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>ウ 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。</p> <p>エ 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。</p>	<p>ア 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。</p> <p>イ 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>ウ 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。</p>

表5 奈良市「古都奈良の文化財」の「世界遺産」登録に該当する基準²²⁾

- (ii) 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。
- (iii) 現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在(少なくとも希有な存在)である。
- (iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。
- (vi) 顕著な普遍的価値を有する出来事(行事)、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある(この基準は他の基準とあわせて用いられる)

に、「古都奈良の文化財」は、複数の歴史遺産を含む形で登録されており、個々の寺社仏閣、また所蔵する固有の国宝・重要文化財などを評価したものではなく、「国際交流から生まれた芸術や技術の発展を示している」「文化や文明の重要な証拠を示している」「人類の歴史の上で重要な時代の遺産が残っている」「信仰や伝統などと密接に関連している」点が評価され、世界遺産として登録された²²⁾。奈良市の世界遺産と同じく、個々の文化財(物)だけでなく、信仰や伝統などが現在もそこに暮らす人々と密接な関係があり受け継がれていることが評価された他府県の世界遺産としては、京都府・滋賀県の「古都京都の文化財」、広島県の「厳島神社」、栃木県の「日光の社寺」、沖縄県の「琉球王国のグスク及び関連遺跡群」、和歌山県・奈良県・三重県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」、岩手県の「平泉 - 仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 -」、福岡県の「神宿る島 - 宗像・沖ノ島と関連遺産群」²³⁾などがあげられる。これらの共通性の高い他府県の世界遺産について学ぶことにより、自分たちが住んでいる奈良市にある「古都奈良の文化財」の世界遺産としての価値についてもより深く学ぶことができると考える。またこれら文化遺産だけでなく我が国が世界に誇る特異的な自然遺産について学習することは、表4に示した学習指導要領第5学年の目標である「我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連」²⁴⁾を考え学ぶことができる。

(3) 第6学年

第6学年の「総合『なら』」では、「正倉院のたからもの」を中心とした学習内容になっている。正倉院は、奈良時代の聖武天皇ゆかりの品をはじめとする多数の美術工芸品を収蔵しており、奈良時代の日本の歴史を学ぶ教材となり、シルクロードを渡って海外からもたらされた様々な収蔵物から、世界の中の日本を知るための学習をすることができる。世界遺産は、表6で示した第6学年の学習指導要領で目標とされる「国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産」²⁵⁾について理解する教材としてや、「多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。」²⁵⁾ための教材として用いることができると考える。

また、第6学年の内容においては、「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。」²⁶⁾とあり、内容の取扱いにおいて、「網羅的、抽象的な扱いを避けるため、「国際連合の働き」については、ユニセフやユネスコの身近な活動を取り上げること」²⁷⁾とされている。ユネスコが制定する世界遺産についての学習は、国際連合の働きを学ぶことにつながると考えられる。

以上のことから、第3学年～第6学年で学習する「総合学習」で行われる「総合『なら』」の世界遺産学習が、系統だって学習を行う小学校社会科教材としても取り扱うことができることが分かった。次章では著者が勤務した小学校が独自に取り組んだ「総合学習」世界遺産学習とそれが小学校社会科の教材として活用できるかどうかを見ていく。

表 6 第 6 学年における目標と内容^{注 3) 28)}

目 標	
<p>(1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。</p>	
内容(知識技能)	内容(思考力, 判断力, 表現力等)
(1) 我が国の政治の働き	
<p>ア 日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>イ 国や地方公共団体の政治は、民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。</p> <p>ウ 見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。</p>	<p>ア 日本国憲法の基本的な考え方に着目して、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現すること。</p> <p>イ 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p>
(2) 我が国の歴史上の主な事象	
<p>ア 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。</p> <p>イ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること。</p> <p>ウ 貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたことを理解すること。</p> <p>エ 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解すること。</p> <p>オ 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解すること。</p> <p>カ キリスト教の伝来、織お田だ・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解すること。</p> <p>キ 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。</p> <p>ク 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。</p> <p>ケ 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。</p> <p>コ 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること。</p> <p>サ 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。</p> <p>シ 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。</p>	<p>ア <u>世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。</u></p>
(3) グローバル化する世界と日本の役割	
<p>ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は、多様であることを理解するとともに、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。</p> <p>イ 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。</p> <p>ウ 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。</p>	<p>ア 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>イ <u>地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。</u></p>

3. 世界遺産学習を小学校社会科で取り組むために：「奈良市鶴舞小学校における実践から」

3-1 奈良市立鶴舞小学校について

奈良市立鶴舞小学校は、奈良市西部に位置する。鶴舞小学校地区は、昭和 35（1960）年頃から近鉄学園前駅の北側の丘陵地を切り拓いて宅地化され、さらに公団住宅が建設されて児童数が増加したため、戦後奈良県では初めての新設公立小学校として昭和 40（1965）年に開校され、2020 年に創立 55 年を迎えた。令和 2（2020）年度現在では、児童数 321 名、17 学級の中規模校である。

平成 23（2011）年よりユネスコスクール^{注6)}に登録され、平成 28（2016）年度から 3 年間奈良市教育委員会より「小・中学校等における起業家体験推進事業」^{注7)}に指定されるとともに平成 28（2016）年度に奈良市ふるさと母校応援事業に選ばれ、平成 29（2017）年度にふるさと納税を活用して「ぼうけんの森」^{注8)}の改修工事を完了、その年から奈良市教育委員会よりコミュニティ・スクール^{注9)}に指定された。

丘陵地を新しく切り拓いた住宅地であるために、鶴舞小学校区内には神社・寺や伝統的な祭りもなく、住民のほとんどは他の地域から移り住んできた典型的な新興住宅地である。そのため、住環境に恵まれている反面、大阪市へ通勤する人も多く、昔からその土地に住み続けている人が少なく、伝統的な祭りに参加することや奈良市の文化財に生活の中で触れる機会が少ない。奈良市が世界遺産学習の目的としている「地域を誇りに思う心情を養う」¹⁾ことや、地域への関心を高めることを目的として、奈良市立鶴舞小学校では、奈良市で取り組まれている「総合『なら』」学習内容と共に、『ふるさと鶴舞』から『世界遺産のあるまち奈良』・『われら地球市民へ』^{注10)}というテーマにより社会科や生活科・総合学習を中心に「ふるさと」からグローバルな課題を学ぶ ESD（持続可能な開発のための教育）としての世界遺産学習に積極的に取り組むこととなった。この取り組み内容を平成 30（2018）年 12 月に開催されたユネスコスクール全国大会（横浜大会）、令和 2（2020）年 2 月に開催された第 10 回世界遺産学習全国サミット（奈良大会）で発表した。

3-2 実践例 第 5 学年における世界遺産学習の取り組み

第 5 学年の総合学習『総合なら』における世界遺産学習においては、副読本を中心とした学習を行い、NPO 法人「なら・観光ボランティアガイドの会」の協力を得て東大寺や興福寺などの奈良の世界遺産の見学を行った。5～6 人程度の少人数に分かれた児童グループに観光ボランティアガイド 1 名が付き添い、親切丁寧な案内を受けた。これまでの副読本を通しての学習やインターネット上での調べ学習では学ぶことができない奈良の世界遺産を実際に体感できただけでなく、奈良の世界遺産に対して誇りを持ち、そのすばらしさを多くの方に伝えたいと活動している観光ボランティアガイドの方々の思いを知ることで、児童は世界遺産を守り後世に引き継ぐことが必要であると学んだ。

第 5 学年の『総合学習』鶴舞では、奈良女子大学甘葛煎再現プロジェクト^{注11)}に参加した。平成 27（2015）年度に、5 年生は、校内にあるうっそうと木々が茂る「ぼうけんの森」を憩いの森に整備したいと「ぼうけんの森再生プラン」に取り組み、その取り組みを通して知り合った奈良女子大学甘葛煎再現プロジェクトに携わっている奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センター 協力研究員前川佳代氏から『甘葛煎』は、平城京の長屋王邸から出土した木簡が初出資料で、長屋王が食べていた可能性がある。鶴舞小学校の児童が「ぼうけんの森」のツタで甘葛煎をつくり、長屋王が味わった甘みを体験することができれば、世界遺産に指定されている平城京跡が日本の中心であった平城京時代の味を体感するというかたちで、世界遺産学習につながる可能性を指摘²⁹⁾する提案があり、鶴舞小学校における「甘葛煎」の再現が行われることになった。

この取り組みは、奈良女子大学甘葛再現プロジェクトに携わる方々や保護者・地域のボランティアの協力を得て実施することができた。「ぼうけんの森」に自生しているツタを使用しようとして始めた取り組みであったが、多くの樹液を取り出すためには樹齢 30～50 年を超える太いツタが必要であると予想されたため、平成 28（2016）、29（2017）年度は奈良女子大学構内から、平成 30（2018）年度は東大寺境内と奈良県立大淵池公園内から、それぞ

これらの関係者の厚意によりツタを入手し、再現活動に取り組んだ。この学習成果を平成 29 (2017) 年度に「平城京天平祭みつきうまし祭り・特別講演会」^{注12)}、平成 30 (2018) 年度には奈良女子大学公開講演会^{注10)}において、有志児童が実践発表を行った。

この取り組みは第 6 学年での歴史学習の導入にもなる学習であり、児童にとっては、天平貴族の幻の甘味料である「甘葛煎」の再現活動を通して、身近な自然である校内の「ぼうけんの森」と「長屋王が味わった甘みを体験すること」²⁹⁾で「平城京時代の味を体感する」²⁹⁾ことができる学習につながった^{注13)}。

平成 30 年度以降についての「甘葛煎」再現活動については、「甘葛煎」の材料に用いるツタの苗を校内の「ぼうけんの森」に植え増やす活動にも取り組んだが、一度伐採されたツタの再生には 30～50 年という月日が必要であることや、樹液を取り出すツタの確保を継続することが困難になることが予想されたため、奈良女子大学甘葛再現プロジェクトに携わられている前川氏の提案を受けて、令和元 (2019) 年度からは、「世界遺産」学習における「再生の体験学習」については、鶴舞小学校区を流れる秋篠川の川岸に自生する多年草「カラムシ」を活用した体験学習にも新たに取り組みをはじめ、可能であれば、「甘葛煎」の再現活動にも取り組むこととした。

「カラムシ」を活用した体験学習とは、「カラムシ」を刈り取り、そこから繊維を取り出し、取り出した繊維を乾燥させたものを使ってコースターを作る体験学習である。「カラムシ」の繊維は、奈良の伝統産業である奈良晒の原料である苧麻（ちょま）となり、この苧麻で織られた奈良晒は僧侶の袈裟や武士の袴として使われていた高級品であった。この体験学習から、児童は、先人たちが守り受け継いできた地域遺産や伝統文化を未来へと伝えていくことを学んだ。

3-3 実践例「第 5 学年における世界遺産学習の取り組み」と小学校社会科

前項で述べた鶴舞小学校第 5 学年で取り組んだ『『総合学習』鶴舞』を、前章で述べた社会科の学習指導要領にあてはめて検討してみる。

NPO 法人「なら・観光ボランティアガイドの会」の協力を得て奈良の世界遺産の見学を行ったことで、児童は世界遺産の魅力を体感できただけでなく、奈良の世界遺産に対して誇りを持ち、そのすばらしさを多くの方に伝えようと活動している観光ボランティアガイドの方々の思いを知ることができた。このことは、表 1, 2 で示した小学校社会第 3 学年・第 4 学年目標にある「地域社会に対する誇りと愛情」⁹⁾、第 4 学年の学習内容にある「県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。」や、「歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。」¹⁰⁾といった小学校社会科の学習につながったと考える。

「甘葛煎」再現プロジェクトで、児童は、天平貴族の幻の甘味料である「甘葛煎」の再現活動を通して、身近な自然である校内の「ぼうけんの森」と平城京とのつながりを実感できる学習を体験することができた。また、自分たちの小学校区に自生する「カラムシ」の刈り取りから繊維の取り出し、取り出した繊維を乾燥させる体験学習は、「カラムシ」の繊維が、奈良の伝統産業である奈良晒の原料「苧麻」であることや、この苧麻で織られた奈良晒が僧侶の袈裟や武士の袴として使われていた高級品であることを知る歴史や伝統産業の学習機会につながった。このことは、第 4 学年学習内容にある「県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること」¹⁴⁾における県内で生産される伝統的な工業製品の学習から発展させて、第 5 学年の学習内容「工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。」³⁰⁾として日本の産業につなげて学習する教材として活用できる。さらに、第 6 学年目標にある「国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産」²⁵⁾や「我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情」²⁵⁾とあって歴史分野の小学校社会科の学習につながると考えられる。

鶴舞小学校児童有志が、これらの成果を平成 29 (2017) 年度に「平城京天平祭みつきう

まし祭り・特別講演会」^{注12)}、平成30(2018)年度には奈良女子大学公開講演会^{注13)}において発表したことは、第5学年目標にある「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことを選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」²⁴⁾にもつなげることができる。

さらに、身近な「世界遺産学習」だけでなく、世界遺産として共通性の高い他府県のもをそれぞれの地域の気候や地形などの自然環境や産業などを踏まえて、比較しながら学習を進めることで、第5学年目標にある「社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。」²⁴⁾や、第6学年の目標にある「歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。」²⁵⁾といった小学校社会科学学習にもつながると考える。

4. まとめ

本稿では、奈良市で実施されている「総合『なら』」と筆者が平成29(2017)年度から3年間、学校長として勤務した奈良市立鶴舞小学校で「『ふるさと鶴舞』から『世界遺産のあるまち奈良』・『われら地球市民へ』」というテーマにより行われた世界遺産学習を核とした総合的な学習の時間の実践から小学校社会科学において世界遺産学習を取り組む方法について検討した。

前述したように奈良市立鶴舞小学校区は、新しく開発された住宅地であり、児童も保護者も地域住民も昔からその土地に住み続けている人が少なく、地域への関心があまり高くない傾向があった。これらの課題に対応すべく「『ふるさと鶴舞』から『世界遺産のあるまち奈良』・『われら地球市民へ』」というテーマにより社会科学や生活科・総合的な学習の時間を中心に「ふるさと」からグローバルな課題を学ぶESD(持続可能な開発のための教育)としての世界遺産学習の実践に取り組んだ。

ESD(持続可能な開発のための教育)は、現代社会の課題を自らの問題として捉え、「身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動」²⁾であり「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」²⁾である。文部科学省において、既に指摘^{注14)}があるように、ESDを行うことは、社会科学の目標である「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」³¹⁾を育成することを目指すことにもつながる。

本稿においては、教科横断的に知識・技能を活用して、課題の解決を図る探究的な学習「総合的な学習の時間」で取り上げられることの多い「世界遺産学習」が「小学校社会科学学習」にも有用であり、相互に連携させることで、児童の学びがより体験的、系統性のある指導につながることを報告した。この報告が、小学校社会科学学習における世界遺産学習の教材化の一助になることを期待したい。

本稿は、奈良市立鶴舞小学校の了承を得て執筆した。

謝辞

本稿で報告した、鶴舞小学校における「甘葛煎」と「カラムシ」の体験学習実施に当たっては、奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センター 協力研究員前川佳代さま、はぐくみ学校サポーターの皆さま、鶴舞小学校教職員の皆さまに大変お世話になりました。心より感謝いたします。

注釈

注1) 世界遺産とは、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会が「顕著で普遍的な価値」を認めた遺跡や景観、自然などであり、国家がその遺産の保護にできる限り関わることとなっている³²⁾。

注2) 奈良市は平成16（2003）年3月に「世界遺産に学び、ともに歩むまち-なら」小中一貫教育特区認定を受けて、教科等を新設した。田原小中学校をはじめとするパイロット校において、「郷土『なら』科」・「英会話科」・「情報科」を新設し、「奈良らしい特色ある教育」を推進してきた。平成27（2015）年からは、これらの新設の教科の研究成果を基に、「総合『なら』」・外国語科・ICTの積極的な活用を奈良らしい特色ある教育と位置づけ、奈良市内全小中学校において実施しており、現在令和2（2020）年度も実施されている⁵⁾。「総合なら」の学習内容は、奈良市ウェブサイト³³⁾に掲載され、「学年・教科等との関連例」が挙げられている。

学科・教科との関連例

・1年「みんなだいすき」	⇒	生活科「ひろがれえがお」
・2年「発見、私のまち」	⇒	生活科「町たんけん」
・3年「おん祭」	⇒	社会科「伝統行事」
・4年「鹿」	⇒	理科「生き物の1年間」や環境問題
・5年「大仏」	⇒	世界遺産学習現地学習
・6年「正倉院」	⇒	社会科「奈良時代」

注3) 表1, 2, 4, 6については、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」のp.29～30に記載されている「社会科の内容構成」とpp.31～134に記載されている「各学年の目標及び内容」をもとに著者が表にした。

注4) 「デジタルブック 奈良大好き世界遺産学習」¹⁷⁾は、日本語版だけでなく英語版も作成され、国内にとどまらず世界各国から閲覧・利用することができる。デジタルブック活用することで、奈良市以外の小中学生が奈良の世界遺産について知ることができる。

注5) 2020年11月現在、日本にある世界遺産は、ユネスコに23件登録されており、文化遺産が19件、自然遺産が4件である。

注6) ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校である。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けている。現在、世界180か国以上の国・地域で11,000校以上のユネスコスクールがある。日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」が始まった平成17（2005）年から飛躍的に増加しており、平成30（2018）年10月時点で1,116校となり、1か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっている³⁴⁾。

注7) 「小・中学校等における起業家体験推進事業」は、「産業構造及び就業構造の変化、グローバル化の進展が進む中、子供たちの進路をめぐる状況は大きく変化しており、児童生徒一人一人が主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、社会的・職業的自立を促すキャリア教育の重要性が増している。また、教育再生実行会議（第7次提言）においては、自ら企画し、高い志を持ち、多様な他者と協働しながら、新しい価値を生み出す主体性や創造性、起業家精神等、これからの時代に求められる資質・能力を育成するための教育活動を重視していくことの必要性が指摘されている。これらを受け、本事業においては、キャリア教育の一環として、『起業家精神（チャレンジ精神、創造、探求心等）や『起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）』を有する人材を育成するため、小中学校等において起業家体験活動を実施するモデルを構築し、全国への普及を図る。」³⁵⁾ ために、文部科学省から各地の教育委員会に事業が平成28（2016）年度から委託されている。

注 8) 「ぼうけんの森」は、運動場北側の斜面約 5,000 m²にあり、開校当時は木も生えていなかったの斜面だったが、その後の植樹活動などにより憩いの森となった。その後、木が生い茂りすぎたこともあり、「教育の一層の活性化を図るため、奈良市心のふるさと応援寄附の使途として、学校ごとに寄附金活用事業と目標金額を設定し、学校の特色づくりや教育環境の充実等に必要な費用」³⁶⁾に充てる寄附金活用事業として集まった寄附金をもとに整備した。

注 9) 「コミュニティ・スクール」は、「学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え『地域とともにある学校づくり』を進める法律（地教行法第 47 条の 5）に基づいた仕組み」³⁷⁾である。

注 10) 『ふるさと鶴舞』から『世界遺産のあるまち奈良』・『われら地球市民へ』は、「ふるさと」からグローバルな課題を学ぶ ESD（持続可能な開発のための教育）としての世界遺産学習を全校体制で計画的に行う教育活動である。この活動を平成 30（2018）年 12 月に開催されたユネスコスクール全国大会（横浜大会）³⁸⁾や第 10 回世界遺産学習全国サミット（奈良大会）³⁹⁾において報告した。活動内容は奈良市立鶴舞小学校ウェブサイト⁴⁰⁾に詳しい。

文末にこの取り組みについて全体像が分かるよう、付表 1「生活・総合領域別年間指導計画～『ふるさと鶴舞』から『世界遺産のあるまち奈良』・『われら地球市民へ』」を示した。

注 11) 「奈良女子大学甘葛再現プロジェクト」は、文化史をおもしろくする方法を考えようと始められたもので、「奈良の菓子文化」を取り上げる中で、古代の甘味料「甘葛煎」の再現プロジェクトが始まった。このプロジェクトについては、『甘葛煎（あまづらせん）再現プロジェクト：よみがえった古代の甘味料』⁴¹⁾に詳しい。また、このプロジェクトに関する奈良市立鶴舞小学校での実践の様子はウェブサイト⁴²⁾に詳しい。

注 12) 「平城京天平祭みつきうまし祭り・特別講演会『奈良の古代のお菓子』」は平成 29（2017）年度には旧平城京歴史館で実施された。奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センター 協力研究員前川佳代氏が講演され、講演内で小学校でのあまづらせんの再現活動として、代表児童による実践活動報告を行った。なお、実施の様子は、奈良市立鶴舞小学校ウェブサイト⁴³⁾に詳しい。児童は実践活動報告の中で「『1300 年も前の平城京の人々と私たちがあまづらせんを通してつながっていることが、とってもうれしく、ちょっと不思議な感じがします』との感想」⁴⁴⁾を述べている。このことについて、森氏は「再現された甘葛煎の試食を通じて、児童が歴史の流れの中に自分が存在することを発見し、そのことに喜びと不思議さを感じたことを示している。甘葛煎再現研究は、児童が自分を過去とのつながりの中に位置づけるという、歴史教育の起点ともいべき経験をもたらす絶好の教材といえる」⁴⁴⁾としている。

注 13) 奈良女子大学公開講演会「夏といえばかき氷 かき氷といえばあまづらせん」については、奈良女子大学の「奈良女子大学〈公開講座〉」ウェブサイト⁴⁵⁾及び奈良市立鶴舞小学校のウェブサイト⁴⁶⁾に詳しい。

注 14) 文部科学省ウェブサイトには、平成 20（2008）年 3 月の「学習指導要領における ESD 関連記述」⁴⁷⁾として、「新しい学習指導要領等に基づいて教育を実施することにより ESD の考えに沿った教育を行うことができる」とされており、小学校においては、総則・社会・理科・生活・家庭科等の記述が挙げられている。その中で、社会については、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う。」⁴⁷⁾が ESD の考え方に繋がるとされている。

引用・参考文献

- 1) 奈良市：世界遺産学習連絡協議会」, <https://www.city.nara.lg.jp/site/shingikai/9060.html> (2020.10.30)
- 2) 文部科学省：「ESD (Education for Sustainable Development)」, <https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm> (2020.10.30)
- 3) 奈良市教育委員会, 世界遺産学習連絡協議会主催：『第10回世界遺産学習全国サミット in なら：世界遺産学習これまでの10年、これからの10年』大会冊子, pp.18-19 (2020)
- 4) 文部科学省：「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編」, 東洋館出版, p.8 (2018)
- 5) 小中一貫教育全国連絡協議会, 奈良市教育委員会主催：『第10回小中一貫教育全国サミット in なら』大会冊子, pp.12-13 (2016)
- 6) 奈良市観光協会：「奈良の世界遺産 行事イベント 長い歴史の中で1度も途切れることなく続く。春日若宮おん祭／春日大社」, <https://narashikanko.or.jp/event/kasugawakamiyaonmatsuri%ef%bc%8fkasugataisya/> (2020.11.24)
- 7) 文部科学省：「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」, 日本文教出版, pp.31-47 (2018)
- 8) 奈良市教育委員会編：『わたしたちの奈良市』, 奈良市教育委員会 (2011)
- 9) 7) と同書, p.31, p.48
- 10) 7) と同書, p.62
- 11) 7) と同書, p.34
- 12) 7) と同書, pp.47-69
- 13) 奈良市観光協会：行事・イベント」, <https://narashikanko.or.jp/event/> (2020.10.30)
- 14) 7) と同書, p.66
- 15) 世界遺産のあるまち奈良編集委員会編：『世界遺産のあるまち奈良』, 奈良市教育委員会 (2000)
- 16) 世界遺産学習資料作成委員会編：『奈良大好き世界遺産学習』, 奈良市教育委員会 (2008)
- 17) 奈良市教育委員会：「デジタルブック 奈良大好き世界遺産学習」, <http://sekaiisang.naracity.ed.jp/study/digitalbook/> (2020.11.25)
- 18) 7) と同書, p.91
- 19) 日本ユネスコ協会連盟：「世界遺産の登録基準」, <https://www.unesco.or.jp/activities/isan/decides/> (2020.11.24)
- 20) ユネスコ：「古都奈良の文化財」, <http://whc.unesco.org/ja/list/870> (2020.10.30)
- 21) 7) と同書, pp.70-96
- 22) 奈良市観光協会：「なぜ「古都 奈良の文化財」が世界遺産に選ばれたのか：奈良の世界遺産」, <https://narashikanko.or.jp/feature/world-heritage/> (2020.11.25)
- 23) 文化庁：「日本の世界遺産一覧」, https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/ (2020.11.24)
- 24) 7) と同書, p.70
- 25) 7) と同書, p.97
- 26) 7) と同書, p.128
- 27) 7) と同書, p.132
- 28) 7) と同書, pp.97-134
- 29) 山辺規子編：『甘葛煎再現プロジェクト：よみがえった古代の甘味料』, かもがわ出版, pp.80-81 (2018)
- 30) 7) と同書, p.82
- 31) 7) と同書, p.17
- 32) Japan Knowledge 『日本大百科全書』, 「世界遺産」 <https://japanknowledge.com/library/> (2020.11.24)

- 33) 奈良市：「奈良市の小中一貫教育 「総合ならの趣旨、内容」, <https://www.city.nara.lg.jp/uploaded/attachment/20387.pdf> (2020.10.30)
- 34) 文部科学省：「ユネスコスクール」, <https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339976.htm> (2020.11.25)
- 35) 文部科学省：「小・中学校等における起業体験推進事業」, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1374260.htm (2020.11.24)
- 36) 奈良市：「奈良市ふるさと母校応援寄附」, <https://www.city.nara.lg.jp/site/kyouiku/5350.html> (2020.11.24)
- 37) 文部科学省：「コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)」, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/ (2020.11.24)
- 38) 日本持続発展教育 (ESD) 推進フォーラム：「第 12 回ユネスコスクール全国大会/ESD 研究大会」, <http://www.jp-esd.org/conference2020/> (2020.11.24)
- 39) ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)：「ユネスコスクール加盟校情報 奈良市立鶴舞小学校」, <http://www.unesco-school.mext.go.jp/index.php?key=muncgrvtc-18&search=1> (2020.11.24)
- 40) 奈良市立鶴舞小学校：「第 10 回ユネスコスクール全国大会・ESD 研究大会の様子 12 月 8 日 (土曜日)」, <http://www.naracity.ed.jp/tsurumai-e/index.cfm/14,4904,13,468,html> (2020.11.24)
- 41) 山辺規子編著：『甘葛煎再現プロジェクト：よみがえった古代の甘味』, かもがわ出版 (2018)
- 42) 奈良市立鶴舞小学校：「5 年生・あまづらせん再現学習①樹液取り出し作業 1 月 30 日 (木曜日)」, <http://www.naracity.ed.jp/tsurumai-e/index.cfm/14,6283,15,497,html> (2020.11.24)
- 43) 奈良市立小学校：「11 月の様子 天平祭特別講演発表 (5 年生希望者・4 日)」, <http://www.naracity.ed.jp/tsurumai-e/index.cfm/12,571,13,464,html> (2020.11.24)
- 44) 森由紀恵：「コラム 甘葛煎と学校教育」, 『甘葛煎再現プロジェクト：よみがえった古代の甘味料』, かもがわ出版, p.99 (2018)
- 45) 奈良女子大学：「奈良女子大学〈公開講座〉「夏といえばかき氷！かき氷といえば甘葛煎！」」, <http://www.nara-wu.ac.jp/liaison/lecture/20180829/index.html> (2020.11.24)
- 46) 奈良市立鶴舞小学校：「8 月の様子奈良女子大学公開講座「あまづらせん」発表 29 日 (水曜日)」, <http://www.naracity.ed.jp/tsurumai-e/index.cfm/14,3439,13,457,html> (2020.11.24)
- 47) 文部科学書：「学習指導要領における ESD 関連記述」, <https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339973.htm> (2020.11.24)
- 48) 淡野明彦：「小学校社会科学学習における世界遺産の教材化」, 『奈良教育大学紀要. 人文・社会科学』, 55 (1), pp.101-111 (2016)
- 49) 奈良市立鶴舞小学校：「生活・総合的な学習の時間」, 『鶴舞小学校研究紀要 平成 29 年度』 (2017)
- 50) 奈良市立鶴舞小学校：「生活・総合的な学習の時間」, 『鶴舞小学校研究紀要 平成 30 年度』 (2018)
- 51) 奈良市立鶴舞小学校：「生活・総合的な学習の時間」, 『鶴舞小学校研究紀要 令和元年度』 (2019)

付表1 生活・総合領域 別年間指導計画～『ふるさと鶴舞』から『世界遺産のあるまち奈良』・『われら地球市民』へ』

領域	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年
① 地域	町を知ろう ・西部図書館の見学	レッツゴー 町たんけん ・校区めぐり ・地図に表そう	つるまい校区を 調べよう つるまい博士に なろう ・学校や校区の 歩み	鶴舞の ここが好き 調べて、まとめ て、伝えよう ・写真コンテスト ・校区のいいところ 見つけ ・地域のひととの 交流 秋篠川の自然 を見つめよう ・リバーウォッチ ング ・秋篠川標語作り	世界遺産の あるまち「奈良」 ・古都奈良の遺産 ・見学・ポスター (KJ法) 「からむし」から「奈 良晒」へ ・繊維取り出し ・織物作り	ならから ヒロシマへ ・戦争体験談を 聞く ・ブックトーク
② 異文化					世界の子どもたち ・コミュニケーション、文化理解	われら地球市民 「持続可能な」 社会づくり
③ 環境	学校探検をしよう 季節を感じよう ・大淵池公園の樹木観察 (四季)		エコキッズ ・ネイチャーゲ ーム	リサイクル スタディ ・URリサイクル 活動	森林環境学習 ・奈良公園 (昆虫、樹木、鹿) ・大淵池公園 (樹木、鳥、虫) ・大淵池樹木 プレート	環境問題を 考える ・グリーン カーテン作り
④ 平和						ならから ヒロシマへ ・平和集会・調 べ・見学・新聞 作り・児童会で の呼びかけ
⑤ 人権	みんなみんな だいすきだよ ・家族を紹介し よう ・お手伝いをし よう		つるまいに くらす ・介護施設(ソレ イユ)訪問交流		地域の遺産を 探し、守ろう	運動会・卒業式 を創ろう
⑥ 歴史			ならの祭り ・おん祭り	奈良公園の鹿 ・鹿苑見学・鹿と の共存	幻の甘味料 「あまづら」	日本の文化を 知ろう
⑦ コミュニティ	いいこといっぱい 1年生 ・こども園との 交流会 ・思い出ブック	みんな大きく なったよね ・こども園、1年 との交流会 (七夕、おもちゃ ランド) ・成長と振り返り	つるまいに くらす 1年間を 振り返ろう ・成長と課題	二分の一成人式 ・成長への喜び と感謝 ・将来の夢	なりきりカメラマン ・報道カメラマンの 仕事 ・写真撮影・発表会 避難所 キッズスタッフ	1年生との 交流活動 避難所 キッズスタッフ
⑧ 食育・その他	季節を感じよう ・花、野菜の栽培・観察 ・季節の野菜を育てて食べよう ・生き物を飼おう ・クリ拾い		食について 考えよう ・むかしの食べ物 パソコン ・ローマ字入力 ・ワード ・インターネット	食について 考えよう ・カカオ 絶滅危惧種につ いて考えよう ・ニッポンバラ タナゴ パソコン ・インターネット ・キーボー島	食について考えよう ・栽培活動・イネ 野外活動 パソコン ・ワード ・インターネット	食について 考えよう ・バランスの良い 食事作り ・楽しい食事を工 夫しよう パソコン ・インターネット ・ワード ・写真加工 ・パワーポイント

